

企業 ZOOM UP

第107回

リョウインターナショナル

—世界の子供たちへ還元

発展途上国を中心に飢餓や貧困に、億単位の子供たちが苦しんでいる。政府による援助にも限界があり、教育も十分に受けられず、10歳にも満たない子供がその日の食費を稼ぎ、5歳までに亡くなる子供は年間数百万人にも及んでいる。こうした解決の困難な世界的な問題に対し、積極的に力を注いでいるのが、リョウインターナショナルのヒム社長である。

当社は、国際電話プリペイドカードの卸や小売りを手がけている。代表のヒム氏は、バングラデシュで生まれ、カナダへの渡航を経て、95年来日。名刺や判子などを作る企業で働きながら、日本語と経済の勉強に励んだ。その後、群馬県太田市でイスラム教徒向けの食料品店を経営した際に、公衆電話を店舗前に設置したことがきっかけで、通信業界に参入した。

当初は、街角で外国人を見つけては声を掛け、1枚1枚、国際プリペイドカードを手売りしていた。直接会話を交えるなかで、通常より長く通話できる国際プリペイドカードは、日本で暮らす諸外国の方々にとって絶対に必要なものと痛感し、販売を強化。現在では、KDDIスーパーワールドカードをはじめ、当社が取り扱っているプリペイドカードは、400種類以上(OEM含む)で、年間利用者数は延べ50億人、年商45億円を計上するなど、国内では業界トップクラスの会社へと成長を遂げた。近時では、同業の(株)コスモブリッジ(東京都港区)と提携し、一元管理できるデータセンターを国内に設置し、スマートフォンで国際電話が利用できる「RyoCall」も開始した。インターネットを介したIP電話のため、ネットにつながれば、全世界どこからでも通話ができる。

このほか、バングラデシュ、中国、オランダでも会社を経営するなど、趣味は“仕事”と公言するとおり、世界中を飛び回ってビジネスを行っている。社名の“リョウ”と化粧品販売を手がける(株)愛粧堂のメインブランド「リリカジャパン」の“リリカ”は、ヒム社長の子供

「当社が社会貢献のシンボルとなることが私の夢です」と語るヒム社長



の名前から由来しており、会社を自らの子供のように大事に育てたいという想いと決意が込められている。そして、なにより大事しているのが、“人間関係”と語るヒム社長。95年来日し、初めて働いた会社の社長から贈られた絵は、今でも大切に飾られている。

今年初め、ヒム社長は、バングラデシュに1万坪の土地を購入し、飢餓に苦しむ子供たちのために宿泊施設の建築を開始した。5年後の完成を予定し、施設内には、語学やITなどを学べる教育施設のほか、病院を併設するなど子供が成長していくための設備を、すべて個人資金でそろえる。「貧しい子供の救済が一番の目的です。建設する施設では、高度な知識はもちろんのこと、幼少期からお年寄りに対する接し方を教えるなど道徳面での教育も充実させる予定です。そして、彼らがビジネス面で世界的に活躍する偉大な人物に成長してくれるよう望んでいます。少しでも、世界平和に寄与できたら、と考えています」(ヒム社長)。今後もフィリピンやベトナムをはじめ東南アジアに施設の建設を計画し、世界中の子供たちに安心して教育を受けられる環境を提供していきたい、としている。

現在、国内及び東南アジアを主力の商圈にしているが、ヨーロッパへの進出も視野に入れており、2020年までに世界的シェアを拡大する意向だ。世界中で苦しむ子供達を救済すべく、事業拡大を積極的に進めている。

(取材・文/東京支社情報部 安部 隼人)

会社概要

(株) リョウインターナショナル
 企業コード：271129467
 東京都台東区東上野1-14-5、電話03-5818-7275
 ヒム・ウッディン社長
 設立：1998年7月、資本金：3000万円
 年売上高：約45億円(2011年5月期)
 事業内容：国際プリペイドカード販売
<http://www.ryointernational.com/>